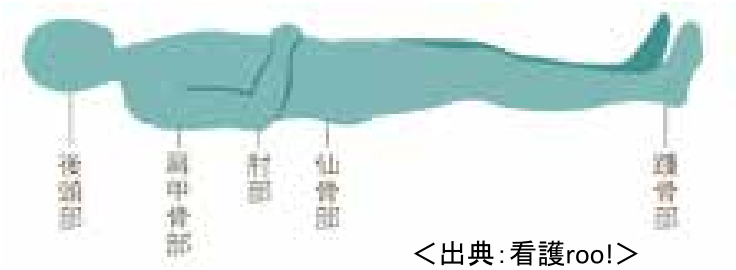
医療現場：手術部

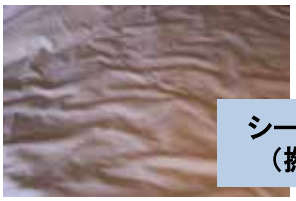
テーマ：撚れない入院用ベッドシーツ

■ 背景　ー褥瘡とはー

私たちは睡眠中寝返りをうったりして、同じ部位に長い時間の圧迫が加わらないようにしている。このような動作を「体位変換」と呼ぶ。寝たきりなど自分で体位変換が出来ないと体重で圧迫されている場所の血流が悪くなる。その結果、皮膚のただれや傷が出来る、その部位の事を褥瘡と呼ぶ（一般的には床擦れとも呼ばれている）。褥瘡は重篤な感染症を引き起こすこともあるため、看護師は常に褥瘡およびその予兆がないか気を配っている。褥瘡は後頭部、肩甲部、仙骨部、かかとなどの骨が突き出ている部分へ出来やすい。



＜出典：看護roo!＞



シーツのしわ
（撚れ部）

■ 課題

患者さんが入院用ベッドに寝ているとどうしてもシーツが撚れてしまう。体位変換が自力で出来ない患者さんの場合、撚れ部は往々にして床擦れ・褥瘡を引き起こす原因となる。現在市販されているシーツは全てズレてしまうため、看護師はしわがないかを確認すると共に、しわがある時は患者さんを動かしてしわを伸ばしている。この作業は時間を取られるだけでなく、看護師の腰痛の原因にもなりえる。また、痛みのある患者さん、気分が悪い患者さんを横に数回向けてシーツを伸ばすため、患者さんにも負担をかけることになっている。従って、しわが出来ないシーツの開発を望みます。

■ 市場性

所謂寝たきりに相当する要介護5の患者数は2017年には60万人に上る（厚労省）。高齢化社会の進展に伴い、患者数は今後も増加していくことが容易に想像される。衛生的には一定頻度で交換が必要であるため、予備シーツも考慮すると大きな需要があると推定できる。また、病院向けだけでなく、一般人向けのニーズもあると考えられる。

■ 手術部ホームページ
https://www.shiga-med.ac.jp/hospital/doc/department/central_Operation/operation/index.html